

3 財務の概要

法人全体の平成 29 年度決算は、収入に関しては、教育活動に関する事業収入（学生生徒納付金・手数料・寄付金・経常費等補助金・付随事業収入・雑収入）が増収となった。支出に関しては、定年退職者の多い年度の為、人件費が増加し、また、西キャンパス整備の為の解体・除却、及び、建物修繕を進めた年度の為、一過性の支出も増加した。事業活動収入合計は 134 億 8,400 万円、事業活動支出合計は 134 億 1,000 万円を計上した。経常収支差額は 10 億円、基本金組入前当年度収支差額は 7,400 万円となった。

翌年度繰越収支差額はマイナス 91 億 2,000 万円の支出超過である。これは本学が施設・設備を充実させ、学生生徒等の満足度を高めることから発生しているものであるが、今年度 4 億 1,100 万円の改善となった。主な収支については以下の通りである。

1. 教育活動収支

教育活動収入は、4 億 9,500 万円増の 132 億 6,900 万円となった。学生生徒納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入とも増加した。教育活動支出は 6 億 5,900 万円増の 124 億 1,600 万円となった。支出増は、定年退職者の多い年度のため退職金の増加、及び、西キャンパス解体費用を支出したことによる。

教育活動収支差額は 8 億 5,400 万円で、教育活動収入計に対する比率は 6.4 % である。

2. 教育活動外収支

教育活動外収支は受取利息・配当金、および借入金等利息の金額であり、教育活動外収支差額は 1 億 4,600 万円となった。その結果、経常収支差額は 1 億 3,900 万円減の 10 億円となった。

3. 特別収支

特別収支の収入として、施設設備の寄付金、及び、補助金収入で 5,400 万円を計上した。特別収支の支出として、資産処分差額 9 億 8,000 万円を計上した。これは、西キャンパス整備に関する建物等の除却に関する費用計上である。

4. 基本金組入前当年度収支差額

上記の教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の結果、基本金組入前当年度収支差額は 7,400 万円となった。事業活動収入計に対する比率は 0.6% である。

5. 繰越収支差額

基本金 6 億円組入後の当年度収支差額は、マイナス 5 億 2,600 万円となった。

基本金取崩額として、9 億 3,800 万円を計上した。これは体育館解体等に伴う取崩額である。その結果、翌年度繰越収支差額は、4 億 1,100 万円改善しマイナス 91 億 2,000 万円となった。事業活動収入計に対する比率はマイナス 67.6% となった。

II

資金収支計算書

事業活動収支計算書の説明以外での特記事項は次の通りである。

1. 収入

借入金等収入は入学支度金貸付資金として公益財団法人東京都私学財団から借入れた 100 万円である。資産売却収入は、短・中期運用の有価証券償還に伴う収入である。前受金収入は授業料等の前受金である。

2. 支出

施設関係の支出は、校舎改修工事、インフラを中心とした学園環境整備事業、省エネ機器設置工事、トイレ改修工事等であり、設備関係の支出は、教学用システムの更新、教職員用パソコンの更新のほか情報システムの環境整備を重点的に推進したことによる支出である。資産運用支出は主に短・中期運用の有価証券の購入支出である。その他の支出では、留学支援として無利子貸与である昭和学園奨学金貸付金支払支出を行った。

III

貸借対照表

1. 資産

資産の部でキャンパス整備工事が開始され、建設仮勘定の計上を始めた。

2. 負債

借入金は返済により 2 億 467 万円減少し、期末残高は 7 億 600 万円となった。退職給与引当金は 1,500 万円の減少となった。なお、退職給与引当金は従来から期末要支給額の 100%相当額の引当を行っている。

3. 純資産の部

基本金は西キャンパス整備のための建物等の除却が発生したため第 1 号基本金が 3 億 3,800 万円の減少となった。翌年度繰越収支差額は、4 億 1,100 万円改善されマイナス 91 億 2,000 万円となった。

IV

収益事業会計

1. 収益事業会計

平成 29 年度より寄附行為に「不動産賃貸業・管理業」を定義し、収益事業を開始した。学校法人会計から分離独立して事業を営んでいる収益事業(会計)の 1 期目の決算は、営業収益として、建物賃貸料収入約 1,700 万円を計上し、学校会計へ約 800 万円を繰入れた。